

社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)
フォローアップ報告書

庄原地区

平成24年11月

広島県庄原市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4 - 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	庄原市まちづくり計画の達成度	%	2.0	53.4	53.4	確定 見込み		あり なし	53.6	H24年4月		改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	計画通りに事業を実施でき目標を達成できた。
指標2	まちづくりに関する検討会やワークショップの回数	回	30	36	67	確定 見込み		あり なし	64	H24年4月		改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	5年間の事業期間でワークショップの回数が従前地の約2倍となり目標を達成できた。
指標3	歩行者通行量	人/12時間	443	500	1,323	確定 見込み		あり なし	1,144	H24年8月		改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	歩行者通行量が増加していることから、中心市街地の活性化を促進でき、交通の安全性も高まった。
指標4						確定 見込み		あり なし				改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	
指標5						確定 見込み		あり なし				改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

様式4 - その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	庁舎市民ホールの活用回数	回	21	/	32	確定 見込み	/	/	50	H24年4月	/	改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	市民ホールの利用主体の増加やコンサートを不定期から定期的に行うようになったことが大きく影響した。
その他の数値指標2	新道地区の緊急車両の進入不可の改善	戸	29	/	10	確定 見込み	/	/	9	H24年8月	/	改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	道路整備によって、地区内の安全性と利便性が大きく向上した。
その他の数値指標3			/	/	/	確定 見込み	/	/	/	/	/	改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4 - 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5 - に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	道路の維持・管理	施工済の道路の継続管理を図る。	現在は、道路及び付属施設の損傷は確認できていない。	利用者に継続して便益を提供できるように安全管理及び美観の保存に努める。
	【修正前】公園の維持・管理 【修正後】広場の維持・管理	まちなか広場は当初、公園としての管理を予定していたが、朝市(物品の販売)や花の展示会などを行うことが可能である観光交流施設として位置付けた。また、オープンイベントを九日市の日に合わせ広く市民への周知を図った。	関連事業である三軒茶屋(空き店舗活用事業)や紅梅通り(路地整備)と一体的に利用され、まちなかの拠点性が高まった。	地域住民の憩いの場としてだけでなく、世界的な造園コンクールで最高賞を受賞された石原和幸氏の「里山のくらし」の再現や、音楽で有名なアーティストの手形を設置したことで観光スポットとしての魅力が生まれたので、積極的な情報発信と、観光客の増加による商店の活性化を促進する。
	案内看板の維持・管理	設置看板の継続管理を図る。	まちなかの施設への誘導が図られている。	備北丘陵公園等を訪れる観光客を市街地に誘導し、更には回遊性を持たせるような看板サイン等の案内施設の充実を図る取り組みを行う。
	事業計画に沿った土地区画整理事業の実施	本年度に仮換地指定を行い建物補償調査等を進め、平成25年度から工事着手していくこととし、平成31年度事業完了を目指して計画通りに事業の進捗を図っているところであり、周辺住民への説明会や庁内でのまちづくり検討会も同時に行っている。	地権者や庁内の関係課と今後のスケジュール等について綿密な協議を行い、区画整理事業への理解が得られている。	地域と行政、観光協会や交通機関などを交えた「庄原駅周辺まちづくり検討会」を継続的に行い、庄原駅前の魅力向上を目指す。
	まちづくり団体の活動維持	まちなか広場の開園に合わせ、「しょうばら花会議」による庭木及び花の植栽を行った。また「九日市愛好会」との連携による施設利用を行っている。	各まちづくり団体が積極的に施設を利用しており、活動内容の幅が広がっている。	各まちづくり団体への施設利用の呼びかけや、新たなイベントの創出、活動支援を行い、地域内交流を促進していく。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	空家・空き店舗の活用	月に一度開催される「九日市」での営業活用。	「九日市」での営業店が増え、活気が増大した。	空家・空き店舗利用者の増大を図る。新規創業者への貸出を図るための制度の充実。
	駐車場の整備	まちなか広場利用者のための駐車場の設置。	まちなか広場利用者の利便性が高まった。	今後、街路事業の整備により、市街地の駐車場不足が予想される。路地等を活用した回遊性のあるまちづくりを進めるうえで、必要な駐車場の位置・規模について検討し、整備を行い、また、駐車場の案内を行う駐車場マップの作成を検討する必要がある。
	都市計画道路駅前線及び駅前新庄線の整備	本事業で実施した新道裏線と接続する駅前線及び交通結節機能の強化が求められる駅前主要幹線道路である駅前新庄線は、関連する駅前土地区画整理事業と同時に着手することとし、計画通りに事業の進捗を図っている。		土地区画整理事業の進捗に伴い、計画に沿った道路整備を推進する。

事後評価シート 添付様式5 - から転記

様式4 - フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
観光客を市中心部に誘導する観光行政の推進	まちなか広場に著名な造園家の庭やアーティストの手形設置に加え、今後は上野総合公園の整備も予定しており、自然や芸術、健康、安らぎをキーワードとした拠点施設のネットワークを形成し、年間50万人を超える国営備北丘陵公園への観光客を市中心部へ誘導する取り組みを行う。	平成33年	当市の魅力を反映した上野総合公園整備を行い、これらの施設を連絡する交通ルートの整備を図る。また、尾道松江線の開通により広域的な交流人口の増加が見込まれる為、本市への誘導に向けた取り組みを更に強化し情報発信を行う。また、まちなか近郊の駐車場の利用者をまちなかに誘導するため、電動自転車等の貸出を行う施策の検討を行う。
庄原市の各種支援制度の情報発信の強化	本市では空家の改修費の助成や起業支援補助、中心市街地活性化補助等の制度があるが、市民の理解度は低い。賑わい創出を生み出し市民が積極的にまちづくりに参画できるよう市が主体となって各種支援制度の活用を促していく。	平成25年	特に中心市街地に存在する空家や空店舗は賑わいや景観上問題となる。市がそれらを有効資源と捉え情報収集・公開し空家等の解消を目指す。併せて、既存店舗の改装補助制度等の活用を促し、中心市街地活性化を促進する。

都市再生整備計画(第3回変更)

しょうばら
庄原地区

ひろしまけん しょうばらし
広島県 庄原市

平成24年 3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	広島県	市町村名	庄原市	地区名	庄原地区	面積	151 ha
計画期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度				

目標
 「住む人」「来る人」が安心して快適に過ごすことのできるまちづくり
 ・交流やにぎわいの生まれる環境づくりを進める
 ・落ち着いた地域の特色やまちづくり活動などの今までの取り組みを活かしていく
 ・まちの機能や生活基盤が整備された安心・安全に暮らすことのできる環境づくりを行う

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
 ・昔から農業中心の地域経済が形成されてきた庄原地区は、昭和50年代に中国自動車道などが整備されたことにより、周辺地域における広域交通網の結節点および拠点としての役割を担うようになった。
 ・近年市街地の形態や人の流れが、周辺道路網の整備により市中心部の商店街を中心としたものから、外縁の幹線道路沿いに駐車場を備えた大型店舗が立地する形態に変化している。また市街地中心部では、木造住宅が密集する従来からの市街地の構成に大きな変化がなく、中心部から人通りが減少するなど地域の活力低下が憂慮される状況である。
 ・一方、

課題
 ・鉄道駅やバスターミナルなどの拠点や生活に密接に関係する行政・医療機関などの位置や情報などを、市民や来訪者にわかりやすく提供する必要がある。
 ・路地整備や来訪者の受け入れ態勢の充実を図り、来訪者のまちなかへの誘引を行うことで地域の活性化につなげていくことが望まれる。
 ・市街地中心部に不足している、地域住民が日常的に利用できる広場や公園などのオープンスペースを確保していくことが求められている。
 ・歩きやすい路地の整備など庄原らしさを演出する地域資源を活用連携したまちづくりを進めていく必要がある。
 ・まちづく

将来ビジョン(中長期)
 ・新庄原市では、平成17年度(2005)から平成26年度(2014)年度を計画期間として、「庄原市・比婆郡5町・総領町 新市建設計画」を策定し、1市6町の速やかな一体化の促進と、地域の均衡ある発展、住民福祉の向上を目指している。
 ・市では、新市庁舎の建設や未着手となっている土地区画整理事業の検討および見直しをしてからの事業着手を目標とし、庄原市の中心部として都市機能の強化を図るための施策を企画、推進している。
 ・これまで取り組まれてきた「まちなか会議」で提案された、地区周辺の地域資源との連携や道路・散策道

目標を定量化する指標

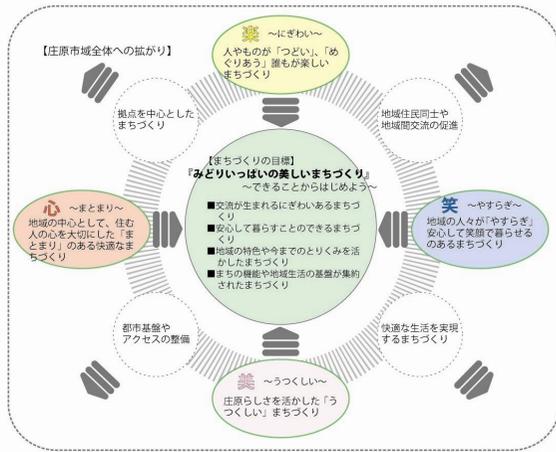
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
				従前値	基準年度	目標値	目標年度
庄原市まちづくり計画の達成度	%	上位計画(まちづくり計画)に取り上げられた事業に対する、都市再生整備計画で達成された事業の割合	ワークショップなどにより総合的な視点から検討されたまちづくり計画が、今回の計画で総合的にどの程度達成できたかを検証する	2.0	平成18年度	53.4	平成24年度
まちづくりに関する検討会やワークショップの開催回数	回	検討会やワークショップの開催回数の増加	地域住民がまちづくりに参加できるしくみや環境づくりを進め、数年減少傾向のまちづくり関連活動回数を増加する	30	平成18年度	36	平成24年度
歩行者通行量	人/12時間	東新町宮の下線の歩行者通行量の増加	歩道未整備の路線に歩道を設置し新たな歩行空間の確保を行うことで、地域住民の安全や利便性の向上を図る	443	平成18年度	500	平成24年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>交流やにぎわいが生まれるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区近隣に位置する「国営備北丘陵公園」や「かんぼの郷庄原」などの観光・レクリエーション資源と連携し、地域内外の交流を促進する。 ・案内施設や集いの場の整備など、今までで不足している来訪者の受け入れ体制の充実を図る。 	<p>紅梅通り整備(基幹:道路) まちなか広場整備(基幹:地域生活基盤施設) サイン整備(基幹:地域生活基盤施設) 紅梅通り・まちなか広場の検討(提案:まちづくり活動推進事業) 駐車場の検討(提案:まちづくり活動推進事業) サインの検討(提案:まちづくり活動推進事業) 高小路線整備(関連事業)</p>
<p>地域の特色や今までのとりくみを活かしたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路地の多い地域の特色を活かし、路地や休憩施設・サインの整備などを行うことで地域の良さを感じることのできるまちづくりを進める。 ・「九日市」などの地域イベントと連携し、来訪者に地域の良さをアピールできる取り組みを継続する。 ・「まちなか会議」などのワークショップ活動の継承・発展を促進するなど、地域住民が主体となったまちづくりを進める。 	<p>紅梅通り整備(基幹:道路) まちなか広場整備(基幹:地域生活基盤施設) 紅梅通り・まちなか広場の検討(提案:まちづくり活動推進事業) サインの検討(提案:まちづくり活動推進事業) 駐車場の検討(提案:まちづくり活動推進事業) 高小路線整備(関連事業)</p>
<p>まちの機能や生活基盤が整備された安心・安全に暮らすことのできるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活道路の整備や避難路の確保、バリアフリー環境の整備促進など、安心・安全に暮らすことのできる環境を整備する。 ・新市庁舎建設など現在進行中のプロジェクトと連携した拠点やアクセスなどの整備を行い、地区内の都市機能の向上を図る。 ・気軽に集える場の整備などにより地域コミュニティの活性化を図り、笑顔で安心して暮らせるあたたかいまちづくりを行う。 ・地域の実情に応じた道路などの都市基盤を計画的に推進する。 	<p>東新町宮の下線整備(基幹:道路) 紅梅通り整備(基幹:道路) 新道裏線整備(基幹:道路) まちなか広場整備(基幹:地域生活基盤施設) サイン整備(基幹:地域生活基盤施設) 土地区画整備事業の検討(提案:地域創造支援事業) 庄原駅周辺地区土地区画整理事業(関連事業) 高小路線整備(関連事業) 庁舎建設事業(関連事業)</p>

その他

【庄原市まちづくり計画のコンセプト】



～都市再生整備計画の目標～
素朴な庄原のまちなみや雰囲気を活かしつつ、交流のための基盤づくりや地域プロジェクトと連携したまちづくりを進めることで、「住む人」「来る人」が安心して快適に過ごすことのできるまちづくりを行っていく。
 ・交流やにぎわいの生まれる環境づくりを進める
 ・落ち着いた地域の特色やまちづくり活動などの今までの取り組みを活かしていく
 ・まちの機能や生活基盤が整備された安心・安全に暮らすことのできる環境づくりを行う

【庄原市のまちづくりについて】
 今回庄原市のまちづくりを進めるにあたり、「まちづくり交付金」制度を活用しハード事業を主体としながらソフト事業連携したまちづくりを進めるため「みどりいっぱい美しいまちづくり」～できることから始めよう～をコンセプトとして「庄原市まちづくり計画」を策定した
 計画の中でコンセプト実現のためハード・ソフト事業を含めた各まちづくり施策を検討したが、施策の分野が幅広くまた事業費も増大した
 そこで、計画で策定した各種まちづくり施策の中から、「将来的なまちづくりに向けた基盤づくり」・「みんなが認識できる地区のシンボルづくり」・「現在進行中の主要プロジェクトとの連携」といった視点から、実現可能で将来的な効果が高く優先して推進すべき事業を選択し、都市再生整備計画に盛り込んだ。

【交付期間内の事業実施手法】
 ・ハード整備だけでなく、「サインの検討」や「散策路の検討」など、地域住民の参加を前提としたソフト事業を盛り込むことで、両者が連携し、地域の実情にあった実効性の高いまちづくりを進めていく。
 ・各まちづくり関連事業に地域住民の声を反映させるため、事業実施にあたり説明会や意見交換会などの形で地域住民の要望や意見を取り入れることのできるしくみづくりを行う。
 ・事業や指標に関する情報は、その内容や進捗状況を広く一般に公開し、地域住民の声を取り入れながら住民参加型の手法でまちづくりの課程を検証していくとともに、その活動を単に指標の達成状況の確認にとどまらず、まちづくりの過程を分析しその問題点や課題の解決に向けた取り組みを積極的に行う。

【交付期間終了後の継続活動】
 ・「まちづくり検討会」など交付期間中に取り組みられたもので、今後まちづくりに効果的と考えられる仕組みや活動は、今後も積極的に継続していく。
 ・現在取り組まれている「九日市」などの地域イベントにおいて、受け入れ態勢などの状況確認を行い、地域の活性化につながる取り組みを継続していく。
 ・交付期間中に取り組まれた活動の中でまちづくりに積極的に参加するという住民の意識高揚を支援するとともに、今後積極的にまちづくりに参加する新たなまちづくりの担い手を育成していく。

